

編集後記

桜という漢字の正字は「櫻」です。漢字は「つくり」の方に意味があります。

「嬰」というのは、「まとわりつく」とか「つつみこむ」とかいった意味だそうです。古代中国の人々は、桜が満開のとき、花が木全体をつつみこむように咲いているのを見て、「櫻」という漢字をつくったわけです。これは、たいへんマクロな見方といえます。

一方、日本では、この木を「サクラ」といいます。日本語の語源は、まだ、よく解明されていませんが、有力な見解は、「ラ」というのは音声を整えるものであって、特段の意味はなく、「サク」に意味があるということです。「サク」は「裂く」とか「割く」とかいった意味だそうです。すなわち、古代の日本人は、桜の花弁の先に切れ込みがあることに着目して、この木を「サクラ」と呼んだということです。これは、実に極端にミクロな見方です。日本人は昔から、ミクロな発想が得意だったようです。

現在の日本を見ても、ミクロな点ではがんばっているのに、マクロ的な観点からは感心できないことが往々にしてあります。

この「総合政策」も4巻に入り、ミクロな視点とマクロな視点のバランスのとれた雑誌にしていきたいと願っております。引き続き、皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

(T・U)